

DIAGNOSTIC TOOL

操作ガイド

HDM-10000

特殊機能「DPF」による DPF 強制再生/三菱ふそう DPF 編

注意事項/必ずお読みください

- ●本書は日立ダイアグノスティックツール HDM-10000 用診断ソフトの診断機能の操作方法、活用事例 について紹介するものです。自動車メーカー発行の整備解説書を代替するものではありません。
- ●実際の作業にあたっては必ず自動車メーカー発行の整備解説書で正式な作業手順、注意事項を ご参照のうえ、作業を行ってください。
- ●自動車メーカーにより予告なく車両の仕様が変更されるため、本資料で紹介する機能が使用できない 場合があります。

1.DPF 再生を実施する場合の操作方法について

HDM-10000 では下記(1)(2)のいずれかで DPF 再生を行うことが可能です。なお、(1)(2)ともに DPF 再生は 車両状態により 30~60 分程度かかります。

(1)特殊機能「DPF」から行う場合

HDM-10000の特殊機能「DPF」は下図の様に DPF の再生に関連する診断機能と作業サポート機能を連続して 実行することができるので、作業サポートメニューに戻る操作を省略することが可能です。

定期点検や車検時に DPF 再生が必要な時にご活用ください。本書では特殊機能による DPF 再生について 2 ページ 以降から解説します。



※「故障コード読取/消去」で消去ができない故障コードが記憶されているときは安全のため、本機能による DPF 再生は 中断されます。その際は、三菱ふそう診断ソフトで故障コードの確認、不具合箇所の点検と修復を行ってください。

(2) 三菱ふそう診断ソフトのメインメニューメニューから行う場合

下図の様に三菱ふそうメインメニューで作業サポートの選択、作業サポートメニューで機能を選択する操作が必要です。



(次ページに続きます)

日立Astemoアフターマーケットジャパン株式会社

1 / 6

2.特殊機能「DPF」による三菱ふそうの DPF の再生手順

【特殊機能「DPF」の使用にあたっての注意事項】

①換気が十分に行える安全な場所に車両を停止させて、完全暖機してから実行してください。

②DPF 再生中は排気管周りが高温になります。排気管回りに可燃物が無いか確認してください。

③シフトレバーがニュートラルであることを確認してください。(AT 車は P レンジ)

④パーキングブレーキをかけてください。

⑤アイドリングストップ装着車はアイドリングストップスイッチを OFF(解除)してください。

⑥PTO 装着車は PTO の作動を停止させてください。

【手順 01:HDM-10000 の車両への接続から特殊機能の起動まで】

①HDM-10000を車両側診断コネクターに接続してください。HDM-10000が起動します。

②車両側キースイッチを ON にしてください。

③HDM-10000 メニュー内の特殊機能を選択して ENTER キーを押してください。



【手順 02:DPF の起動からメーカー選択まで】

①特殊機能が表示されます。「DPF」を選択して ENTER キーを押してください。 DPF の画面が表示されます。



OS V2	2.10	Batt: 26.18 V
DPF	-	
	いすゞ	
	日野	
	三菱ふそう	
	UDトラックス	
ENTER : 選択	EXIT:戻る	
	OG √ DPF	08 √2.10 DPF いすゞ 日野 三菱ふそう UDトラックス

②画面の右側の一覧で「三菱ふそう」を選択して ENTER キーを押してください。

15:03	OS ∨2.10 DPF	Batt: 26.18 V	 10:12	OS ·	v2.10 PF	Batt: 12.23 V
DPF点検	いす	ک	DPF点検		いすゞ	
	日野				日野	
	三菱	ふそう			三菱ふそう	
	UD H	ラックス			UDトラックス	
	ENTER:選択 EXI	[:戻る		ENTER:選択	EXIT:戻る	

(次ページに続きます)

【手順 03:車両選択/自動検出から DPF 点検の作業内容の表示まで】

①「車両選択」が表示されます。接続している車両に該当する車両名を選択して ENTER キーを押してください。

次に「年式選択」で該当する年式を選択して ENTER キーを押してください。

10:13	MitsubishiFuso v4.92 車両選択	Batt: 12.23 V	10:13	MitsubishiFuso v4.92 年式選択	Batt: 12.21 V
スーパーグレー	F	4].	2024年モデル		
ファイター			2020年モデル		
キャンター			2010年モデル		
キャンター エニ	コ ハイブリッド		2006年モデル		
eキャンター			2004年モデル		
エアロエース/コ	エアロクイーン		2002年モデル以前		
エアロバス/エア	アロクイーン				
エアロキング		-J			
	ENTER 選択 EXIT 戻る			 ENTER:選択 EXIT:戻る	

②「車両モデルの確認」が表示されたら内容を確認して ENTER キーを押してください。「車体番号読取」が実行され、 その後に表示が「イニシャライズ中・・・しばらくお待ち下さい」から「DPF メニュー」に切り替わります。



③「DPF メニュー」で「DPF 点検モード」を選択して ENTER キーを押してください。「DPF 点検の作業内容」が

表示されます。

10:14	MitsubishiFuso v4.92 DPFメニュー	Batt: 12.23 V	10:14	MitsubishiFuso v4.92 DPF点検の作業内容	Batt: 12.22 V
DPF関連データモ DPF点検モード	:_\$		 1. 故障コー 2. 故障コー 3. DPF関連デ 4. DPFデータ 5. DPF強制再 6. 強制再生行 	ド消去 ド読取 ニータの表示 リセット 生 多のDPF関連データ表示	
	ENTER:選択 EXIT:戻る			ENTER:次へ EXIT:中止	

(次ページに続きます)

【手順 04:DPF 点検の作業内容の表示から確認事項の表示まで】

①「DPF 点検の作業内容」が表示されたら ENTER キーを押してください。 次に「DPF 点検モードを開始します」が表示

されたら ENTER キーを押してください。



③「DPF 関連データーモニター」が表示されたら画面下部の「次へ」(白矢印で示す箇所)の色が赤色に反転していること を確認してから ENTER キーを押してください。「DPF 強制再生」の「重要!!」が表示されたら内容を確認してから ENTER キーを押してください。



(次ページに続きます)

【手順 05:DPF 強制再生から終了まで】

①「DPF 強制再生」が表示されたらエンジンを始動し、ENTER キーを押してください。画面に「再生中」が表示され

DPFの再生が開始されます。(「条件が整っていません」と表示された場合は下記補足を参照ください)

10:34 Mi	tsubishiFuso v4.92 DPF強制再生	Batt: 13.92 V	10:37	MitsubishiFuso, DPF強制再生	v4.92 Batt: 13.98 V
前段酸化触媒前排気温度		154 °C	構成部品 'DPF'。	の差圧	2.40 kPa
DPF前排気温度		257 °C	コモンレール差圧		60.00 kPa
構成部品 ′ ラムダ・コントロール・センサ	のステータス	-	目標コモンレール差圧		35890 kPa
SCR触媒後ろ排気温度		83 °C	エンジン回転数		1502 1/min
SCR触媒前排気温度		107 °C	エンジン吸入空気量		36.11 g/s
	開始			再生中(01:	:50)

②「完了!!」が表示されたら ENTER キーを押してください。次に「DPF 関連データーモニター」が表示されたら画面下部の 「終了」(白矢印で示す箇所)の色が赤色に反転していることを確認し、ENTER キーを押してください。「全ての作業が 完了しました。」が表示されれば終了です。(車両状態により 30~60 分ほど時間がかかります)

10:56	MitsubishiFuso v4.92 DPF強制再生	Batt: 13.93 V	10:56	MitsubishiFuso 、 DPF関連データモ	/4.92 Batt: 13.88 V ニタ
	完了!		SCR触媒前排気温度		469 °C
			水温		77 °C
			パティキュレート・フィルタ内の急	告圧(修正値)	0.60 kPa
			構成部品 'DPF' の差	Æ	0.50 kPa
		•	エンジン回転数		650 1/min
			パティキュレート・フィルタのス ス	量	2.3 g
	ENTER 次へ		終了	データ保存	印刷

【補足】

水温が 60℃以下の時に「DPF 強制再生」で ENTER キーを押すと「条件が整っていません」と表示されます。 その時は ENTER キーを押して「DPF 関連データーモニター」を表示させて画面内の水温の値が 60℃以上になるまで 暖機運転をおこなってください。

その後、画面の「終了」(白矢印で示す箇所)の色が赤色に反転していることを確認してから ENTER キーを 押し、再度、2 ページの手順 01 の②から操作を行ってください。

10:14	MitsubishiFuso ∨4.92 DPF強制再生	Batt: 13.90 V	10:15 Mitsubishil DPF関連デー	uso v4.92 Batt: 13.91 V - タモニタ
			前段酸化触媒前排気温度	48 °C
	条件が整っていません		DPF前排気温度	97 °C
	水温等を確認後、再実行して下さい		SCR触媒後ろ排気温度	42 °C
			SCR触媒前排気温度	36 °C
			水温	48 °C
			パティキュレート・フィルタ内の差(修正値)	0. 20 kPa
	ENTER : 次へ		終了 データ	保存

(次ページに続きます)

【注記:消去ができない故障コードが検出された場合の動作について】

4ページの手順 04 の②で「イニシャライズ中・・・・しばらくお待ちください」が表示されているときは同時に故障コードの消去 と読取を行っており、消去ができない故障コードを検知したときは安全のため、下図⑦を表示して DPF 再生を中断し、 以後、故障コードが消去されるまでは DPF 再生の実行を停止します。

下図 ⑦が表示されたら、下図 ⑦ ~ ⑦に進み、消去できなかった故障コードの確認と、日野診断ソフトによる故障コードの 確認、該当箇所の診断と整備、故障コードの消去を行ってください。



(2025.3 発行)